

HAMAMATSU

PHOTON IS OUR BUSINESS

第71期 中間報告書

平成29年10月1日から平成30年3月31日まで

証券コード：6965

浜松ホトニクス株式会社



株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

ここに、第71期中間期（平成29年10月1日から平成30年3月31日）における中間報告書をお届けするにあたり、ご挨拶を申し上げます。

当社グループを取りまく経営環境につきましては、欧米の政治動向や東アジア及び中東における地政学的リスクに加え、中間期末にかけて円高が進行するなど、景気の先行きは不透明な状況となっております。

このような中、当社の主力製品群におきましても、世界的な競争が激しさを増しており、これまで以上に外部環境の変化に柔軟かつ迅速に適応していく能力が求められております。

他方、当社グループが関わる光の応用範囲は年々拡大の一途を辿っており、当社が供給する製品は、医用、産業など様々な分野において欠かすことのできない要素技術（Key Enabling Technology）となっております。すなわち、当社製品は、最終的にはお客様の装置に組み込まれ、その性能を左右する重要なキーデバイスとなっており、当社の光技術が果たすべき役割は今後ますます大きくなるものと

連結財務ハイライト

売上高の推移



経常利益の推移



認識しております。

当社は、このように世界的な規模で高まる光技術へのニーズにスピード感をもって対応するため、新たな事業アイデアを早期具現化するラピッドプロトタイプング手法の導入のほか、各事業セグメントに共通する製造工程を集約化する生産拠点を設けるなど、研究開発及び製品の製造能力の強化についても積極的な投資を進めております。

なお、本年3月29日、前代表取締役会長兼社長の晝馬輝夫が逝去いたしました。株主の皆様にはこれまでのご高誼に厚くお礼申しあげるとともに、役職員一同、前社長より受け継いだベンチャー精神、無限の可能性を有する光技術で人類未知未踏領域に挑戦し続けるという精神を絶やさず、さらに進化させることで、引続き社業の発展に邁進してまいります。

株主の皆様におかれましては、これまで以上のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成30年6月

代表取締役社長
晝馬 明

第71期中間期連結業績

売上高	73,074百万円 (前年同期比12.5%増)
営業利益	14,995百万円 (前年同期比34.3%増)
経常利益	15,217百万円 (前年同期比27.0%増)
親会社株主に帰属する当期純利益	10,429百万円 (前年同期比17.0%増)

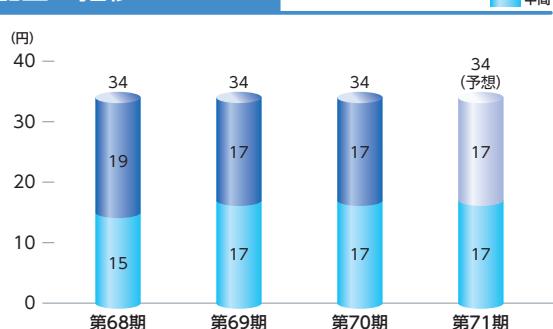
第71期通期連結業績予想

売上高	144,300百万円 (前期比10.6%増)
営業利益	26,600百万円 (前期比16.4%増)
経常利益	26,900百万円 (前期比11.9%増)
親会社株主に帰属する当期純利益	19,200百万円 (前期比 8.0%増)

親会社株主に帰属する当期純利益の推移



配当の推移



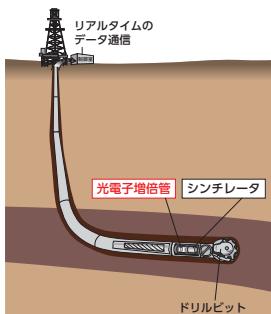
※平成27年4月1日(第68期)をもちまして、1株につき2株の割合にて株式分割を行っております。そのため、第68期の期首に当該株式分割が行われたものと仮定して算定しております。

光電子増倍管

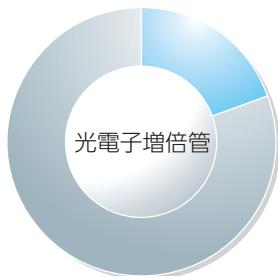
電子管事業

光電子増倍管は、医用分野におきまして、PETなどの核医学検査装置向けの売上げが減少いたしました。しかしながら、血液分析などの検体検査装置向けがその高感度、低ノイズ、高速応答特性を評価されて堅調に推移いたしました。また、計測分野におきまして、高温や衝撃、振動などへの耐性に優れた油田探査装置向けの売上げが増加いたしました結果、光電子増倍管の売上げは14,347百万円と前年同期に比べ9.4%の増加となりました。

【連結売上高の推移】



▲油田探査の概念図



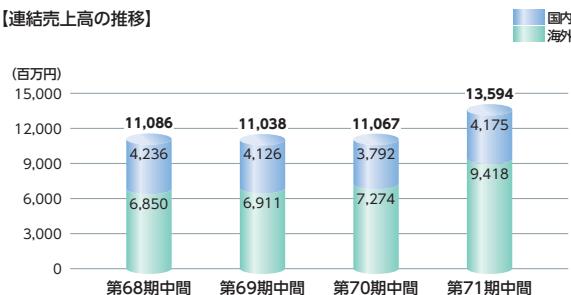
売上高比率 **19.6%**

イメージ機器及び光源

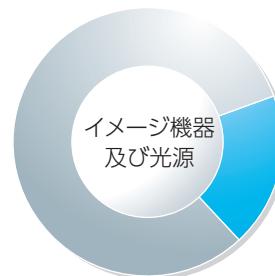
電子管事業

イメージ機器及び光源は、産業分野におきまして、X線非破壊検査用のマイクロフォーカスX線源がその高精細かつ高い信頼性・安定性を評価されて国内外で売上げが好調に推移いたしました。また、医用分野におきましてX線画像を可視像に変換するX線シンチレータの売上げが堅調に推移いたしました。さらに、環境分析等で用いられるキセノンフラッシュランプ及び重水素ランプも売上げを伸ばしました結果、イメージ機器及び光源の売上げは13,594百万円と前年同期に比べ22.8%の増加となりました。

【連結売上高の推移】



▲キセノンフラッシュランプモジュール



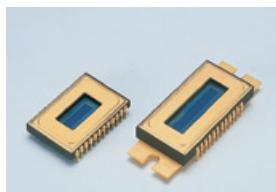
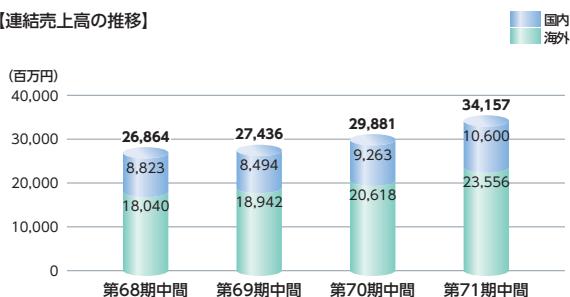
売上高比率 **18.6%**

光半導体素子

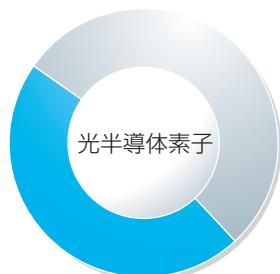
光半導体事業

光半導体素子は、産業分野におきまして、半導体製造・検査装置向けのイメージセンサ等の売上げが好調に推移したほか、産業用ロボット等の制御などFA（ファクトリーオートメーション）分野におけるフォトIC、フォトダイオード及びLEDの売上げも増加いたしました。また、医用分野における売上げも堅調に推移いたしました結果、光半導体素子といたしましては、34,157百万円と前年同期に比べ14.3%の増加となりました。

【連結売上高の推移】



▲イメージセンサ



売上高比率 **46.7%**

画像処理・計測装置

画像計測機器事業

画像処理・計測装置は、遠隔病理診断等で用いられる病理デジタルスライドスキャナの売上げが、新製品の投入もあり欧州を中心に堅調に推移いたしました。しかしながら、半導体故障解析装置が、下期への受注の集中により、売上げが減少いたしました。また、生命分野やバイオ分野で用いられるデジタルカメラの売上げも減少いたしました結果、画像処理・計測装置といたしましては、8,681百万円と前年同期に比べ1.6%の減少となりました。

【連結売上高の推移】



▲病理デジタルスライドスキャナ



売上高比率 **11.9%**

当社グループでは、長年にわたり培ってきた独自の光技術を駆使し、バイオ、医療、情報、通信、エネルギー、物質、宇宙・天文、農業等の分野において、新しい知識、新しい産業の創成を目指した基礎研究を推し進めるとともに、新製品の開発及び既存製品の高機能化・高付加価値化を目指した開発を行っております。

以下に、当中間期におけるその成果の一部をご紹介します。

[基礎研究分野]

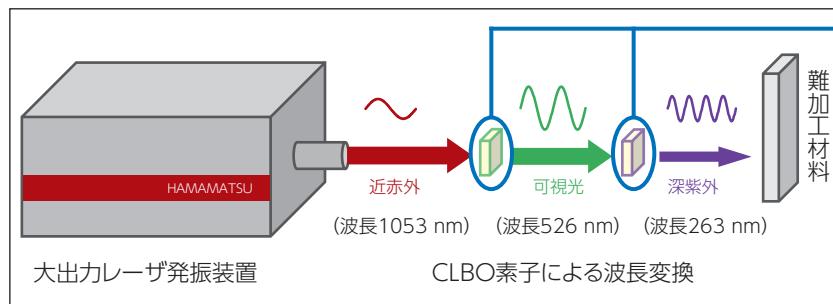
■ 大出力レーザの産業応用

炭素繊維強化プラスチックは、鉄よりも強度が高くアルミより軽いという優れた特性から、自動車、航空機、建築、医療、産業用ロボット等あらゆる分野での応用が期待されております。しかしながら、その高い強度から、現在の加工技術では高品質な加工が難しく、かつ、加工速度にも限界があることから、新たな加工方法が実現すれば、産業の発展に大きく貢献することが期待できます。

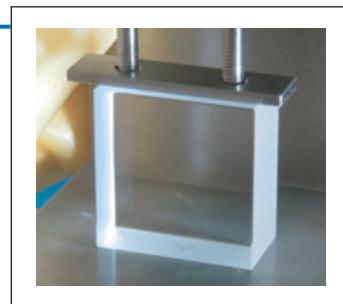
当社は、独自の結晶生成技術により、レーザの波長を近赤外から深紫外に高効率で変換可能なホウ酸セシウムリチウム (CLBO) 素子の大型化に成功し、当社製大出力レーザと組み合わせることで、世界で初めて、深紫外固体レーザによる1ジュール^[1]超のパルス出力を達成いたしました。

このレーザは高いエネルギーをもつため、特定の物質に照射することで、その照射部分の分子結合を分離する光分解加工の実現が期待できます。光分解加工は、炭素繊維強化プラスチック等の新たな加工方法として注目されております。

今後は、CLBO素子の大型化・高品質化を推進するとともにレーザのさらなる大出力化に取り組むことで、光分解加工の実現をはじめ、大出力レーザの産業応用等を目指してまいります。



▲大出力レーザによる光分解加工の概念図



▲新開発のCLBO素子

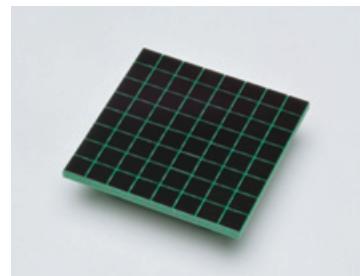
[1] ジュールとはエネルギーの単位で、1ジュールは0.24カロリーの熱量に相当します。新開発の深紫外固体レーザでは、この熱量を1億分の1秒に集中し、繰り返し出力することが可能です。

[開発分野]

医療機器分野で培われた光技術の産業分野（手荷物検査用途）への応用

空港等における手荷物検査装置には、当社製シリコン（Si）フォトダイオードアレイが幅広く用いられております。近年、航空機や空港の安全確保に対するニーズの高まりをうけ、内容物を上から又は側面から捉えた二次元画像のみ取得可能な従来型手荷物検査装置から、内容物の三次元画像を360度回転させて確認可能なCT型手荷物検査装置への置き換えが進んでおります。これにより、手荷物検査の精度が向上することでより安全性が高まるとともに、検査時間の大幅な短縮が期待できます。

このCT型手荷物検査装置に搭載されている当社製Siフォトダイオードアレイは、長年にわたり当社が先進医療機器向けに培ってきた技術を手荷物検査用途に応用したものであり、低ノイズ、高感度、高精細である点を高く評価されております。



▲CT型手荷物検査装置に搭載されるSiフォトダイオードアレイ

[トピックス]

エナジティック・テクノロジー・インクの全株式を取得

連結子会社であるホトニクス・マネージメント・コーポは、半導体検査装置に組み込まれる光源を製造、販売するエナジティック・テクノロジー・インク（エナジティック社）の全株式を取得し、完全子会社化いたしました。エナジティック社は、高輝度な光源であるレーザ励起光源で市場を独占しており、また、従来の半導体検査用光源よりも波長が短い極紫外線光源を世界で唯一製品化している会社です。

半導体製造技術の微細化が進む中、半導体検査工程の作業時間短縮及び測定精度向上のため、さらなる高輝度化やより波長が短い光源への要求が高まってくることが見込まれております。

当社は従来からキセノンランプや水銀キセノンランプなど、半導体検査用の光源を開発、販売してまいりましたが、エナジティック社の光源を加え、当社グループの製品ラインナップを拡充することで、半導体検査装置市場からの要求に対応してまいります。さらに、両社が培ってきた光源開発技術を組み合わせることで、開発速度を上げるとともに、より高付加価値な製品を開発してまいります。

中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

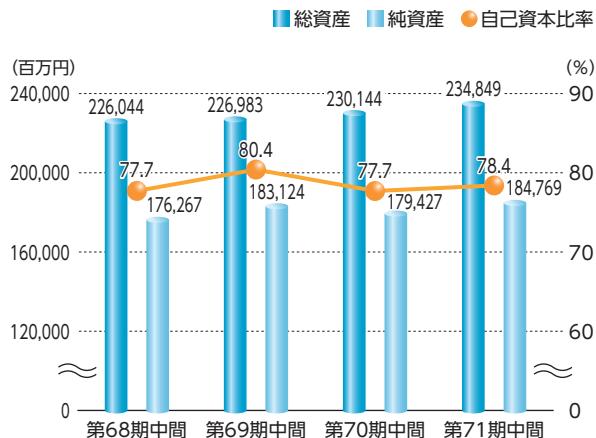
科目	当中間期 (平成30年3月31日現在)	前中間期 (平成29年3月31日現在)	前期 (平成29年9月30日現在)
資産の部			
流動資産	144,832	149,742	156,834
固定資産	90,016	80,401	82,497
有形固定資産	71,469	67,146	68,291
無形固定資産	5,625	1,722	1,697
投資その他の資産	12,921	11,532	12,507
資産合計	234,849	230,144	239,331
負債の部			
流動負債	37,723	34,845	40,059
固定負債	12,356	15,871	11,713
負債合計	50,080	50,717	51,773
純資産の部			
株主資本	182,970	179,039	185,219
資本金	34,928	34,928	34,928
資本剰余金	34,672	34,672	34,672
利益剰余金	139,429	125,497	131,678
自己株式	△26,060	△16,059	△16,060
その他の包括利益累計額	1,129	△232	1,719
その他有価証券評価差額金	1,553	752	1,259
為替換算調整勘定	263	115	1,210
退職給付に係る調整累計額	△687	△1,100	△750
非支配株主持分	669	621	618
純資産合計	184,769	179,427	187,558
負債純資産合計	234,849	230,144	239,331

中間連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	当中間期 (自平成29年10月1日 至平成30年3月31日)	前中間期 (自平成28年10月1日 至平成29年3月31日)	前期 (自平成28年10月1日 至平成29年9月30日)
売上高	73,074	64,953	130,495
売上原価	35,383	32,915	65,670
売上総利益	37,690	32,038	64,825
販売費及び一般管理費	22,695	20,876	41,975
営業利益	14,995	11,161	22,849
営業外収益	486	943	1,407
営業外費用	264	125	219
経常利益	15,217	11,978	24,037
特別利益	11	11	234
特別損失	800	35	701
税金等調整前中間(当期)純利益	14,428	11,954	23,570
法人税等	3,967	3,001	5,727
中間(当期)純利益	10,461	8,953	17,842
非支配株主に帰属する中間(当期)純利益	31	35	65
親会社株主に帰属する中間(当期)純利益	10,429	8,917	17,777

■ 総資産／純資産／自己資本比率



●会社の概況

設立 昭和28年9月29日

資本金 34,928百万円

従業員数 3,362名

主要営業品目 光電子増倍管、イメージ機器、光源、
光半導体素子、画像処理・計測装置

役員

代表取締役社長	晝馬 明
代表取締役副社長	竹内 純一
代表取締役専務取締役	山本 晃永
常務取締役	鈴木 賢次
常務取締役	原 勉
常務取締役	吉田 堅司
取締役	鳥山 尚史
取締役	森 和彦
取締役	丸野 正
取締役	鈴木 貴幸
取締役(社外)	小館 香椎子
取締役(社外)	鯉 淵 健
常勤監査役	水島 廣
常勤監査役	宇津山 晃
監査役(社外)	楨 祐治
監査役(社外)	佐野 三郎

●国内拠点

本社事務所
静岡県浜松市

工場
本社工場／新貝工場／天王製作所／常光製作所／
都田製作所（いずれも浜松市）／豊岡製作所／
三^{みつ}家工場（いずれも磐田市）

支店・営業所
東京支店・東京営業所／仙台営業所／筑波営業所／
中部営業所（浜松市）／大阪営業所／西日本営業所（福岡市）

研究所
中央研究所／産業開発研究所（いずれも浜松市）／筑波研究所

●連結対象子会社

国内
株式会社光素／高丘電子株式会社／浜松電子プレス株式会社／
株式会社磐田グランドホテル

海外
米国 ホトニクス・マネージメント・コーポ
ハママツ・コーポレーション
エナジティック・テクノロジー・インク
欧州 ハママツ・ホトニクス・ドイチュラント・ゲー・エム・
ベー・ハー
ハママツ・ホトニクス・フランス・エス・ア・エール・
エル
ハママツ・ホトニクス・イタリア・エス・アール・エル
ハママツ・ホトニクス・ユー・ケイ・リミテッド
ハママツ・ホトニクス・ノルデン・エイ・ビー
ハママツ・ホトニクス・ヨーロッパ・ゲー・エム・
ベー・ハー

アジア 浜松光子学商貿（中国）有限公司
台湾浜松光子学有限公司
北京浜松光子技術股份有限公司
浜松光子医療科技（廊坊）有限公司
浜松光子学科学儀器（北京）有限公司

● 株式事項

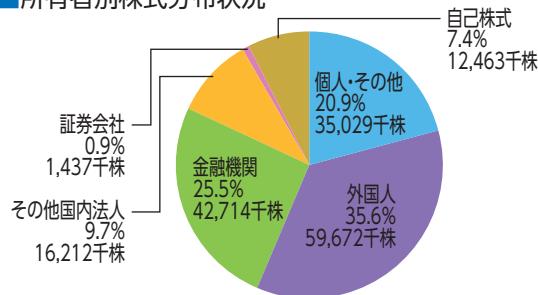
■ 発行済株式総数 167,529,968株

■ 株主数 22,042名

大株主	株式数
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	9,726,700株
トヨタ自動車株式会社	8,400,000株
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー	6,611,303株
ジェーピーモルガンチェースバンク380055	6,602,483株
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	6,183,800株
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	5,662,500株
浜松ホトニクス従業員持株会	4,876,608株
野村信託銀行株式会社(投信口)	2,888,300株
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	2,782,800株
ステートストリートバンクウェストクライアントトリーティー505234	2,696,832株

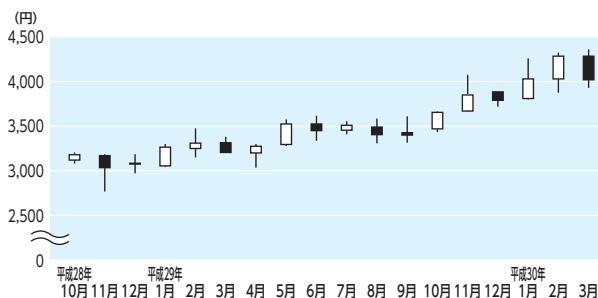
(注) 1. 上記のほか、自己株式12,463,737株があります。
2. 当期中に、自己株式として当社普通株式を2,518,400株取得いたしましたが、平成30年4月26日付で同株式数を消却しております。

■ 所有者別株式分布状況



■ 第71期中間配当金 1株につき 17円

● 株価の推移



ウェブサイトのご案内

当社ウェブサイトでは、製品情報、製品サポート、展示会情報、研究開発、会社情報、株主・投資家情報などのほか、光に関する様々なコンテンツを提供しております。

また、「Photonてらす」では、身近な存在でありながら未知の部分が多い「光」の基本的な特徴や性質、光の特性を使ったテクノロジーや暮らしの中での活用例などを紹介しております。

TOPページ



<http://www.hamamatsu.com>

Photonてらす



<http://photonterrace.net>

●株式についてのご案内

株式に関する各種手続きのお申出先

1. 証券会社に口座をお持ちの株主様の住所変更、单元未満株式の買取請求、配当金受取方法の指定等のお手続き

▶ お取引されている証券会社等
にお申出ください。

2. 未払配当金の支払い及び証券会社に口座をお持ちでないため特別口座が開設されました株主様の住所変更、单元未満株式の買取請求、配当金受取方法の指定等のお申出先

▶ 三井住友信託銀行株式会社
0120-782-031 (通話料無料)
(受付時間 土・日・祝祭日を除く9:00~17:00)

●株主メモ

事業年度	10月1日から翌年9月30日まで
定時株主総会 定時株主総会基準日	毎年12月 9月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して一定の日を定めます。
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 上記のお問い合わせ先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031 (通話料無料) なお、取次事務は三井住友信託銀行株式会社の全国本支店で行っております。
单元株式数	100株
公告方法	電子公告の方法により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 公告掲載の当社ホームページアドレス http://www.hamamatsu.com/ja/ir/index.html

HAMAMATSU

PHOTON IS OUR BUSINESS

